

SQL Serverのバージョンが異なる環境間での物件データの受け渡し方法

FN2.0、FN-SS、RC2.0、RC-SSにおいてSQL Serverのバージョンが異なる環境間では、物件の圧縮保存→圧縮ファイル読込が失敗することがあります。

失敗するSQL Serverのバージョンのケースとして以下の表をご確認ください。

	出力側(物件を渡す側)	読込側(物件を受け取る側)	使用可否
(1)	SQL Server 2014	SQL Server 2022	問題ありません。
(2)	SQL Server 2014	SQL Server 2014	問題ありません。
(3)	SQL Server 2022	SQL Server 2022	問題ありません。
(4)	SQL Server 2022	SQL Server 2014	失敗します。

上記の(4)に当てはまる場合、従来の圧縮保存→圧縮ファイル読込ではなく、「2022→2014物件エクスポート/インポート機能」をご利用ください。

SQL Serverのバージョンの確認方法は以下の表より、ボタン表示の有無からご覧ください。

システムのSQL Server バージョン	2022→2014物件エクスポートボタン	2022→2014物件インポートボタン
SQL Server 2022	表示される	表示されない
SQL Server 2014	表示されない	表示される

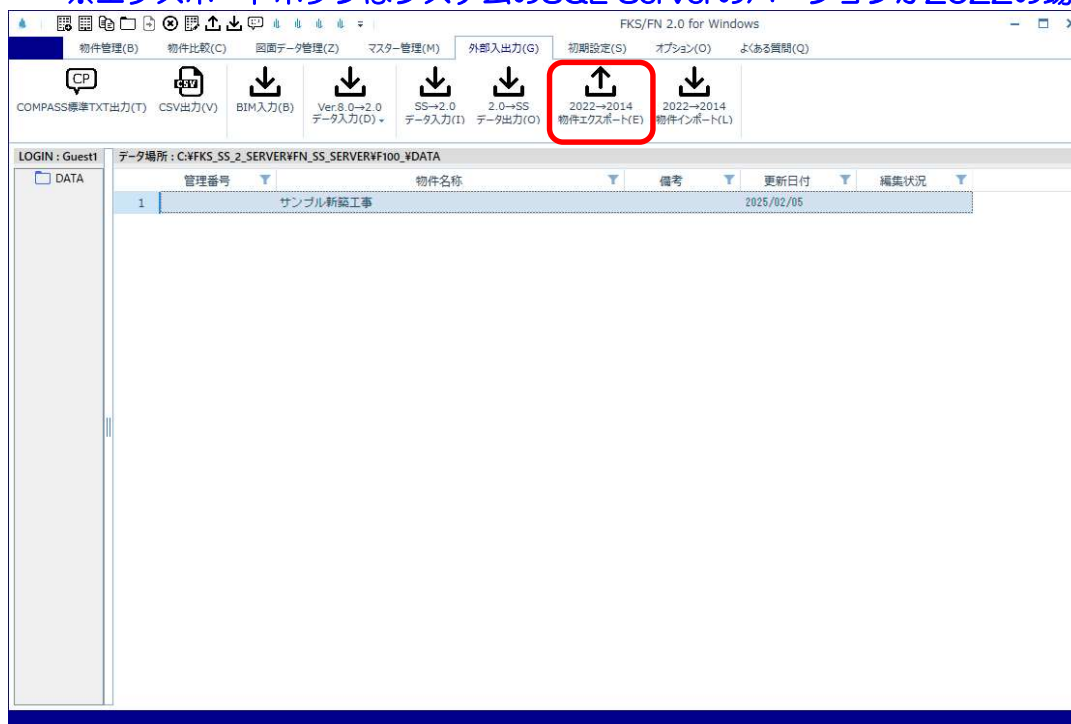
手順は次の2ステップです。

- 出力側は「2022→2014物件エクスポート」より物件を出力
- 読込側は渡された物件ファイルを「2022→2014物件インポート」より物件を読込む

出力方法

FN、RC共に物件一覧画面の「外部入出力タブ」→「2022→2014物件エクスポート」ボタンより物件の圧縮保存をします。これより先の圧縮保存の流れは従来の圧縮保存と同等です。

※エクスポートボタンはシステムのSQL Serverのバージョンが2022の場合にのみ表示されます。

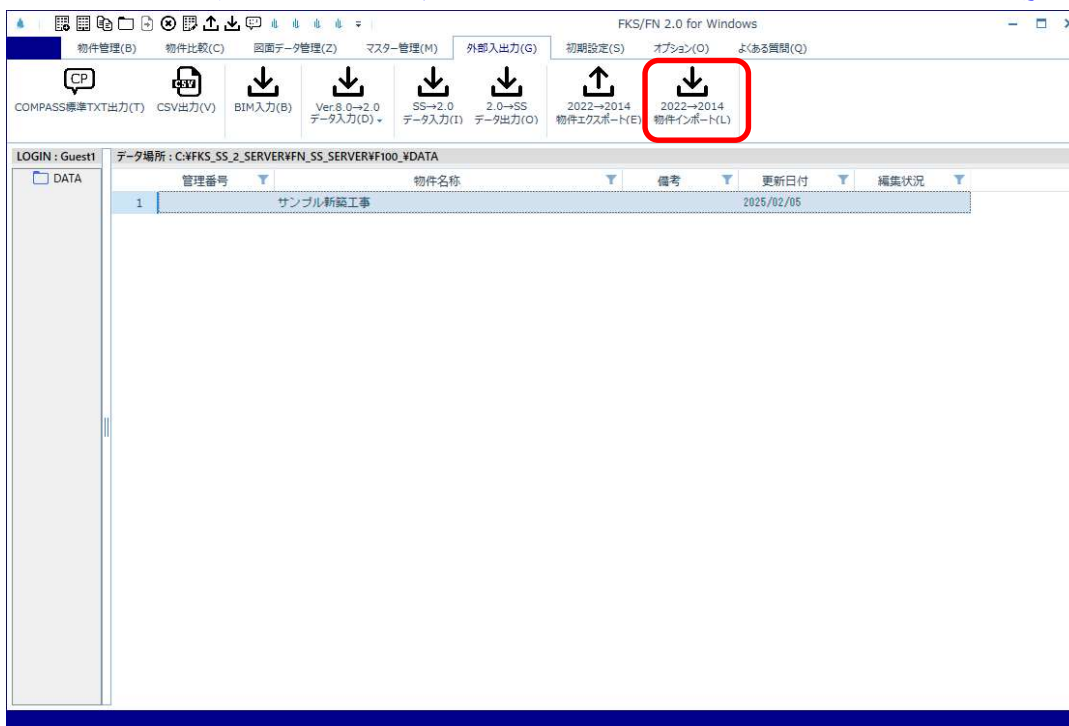


※作成されるファイルの拡張子はシステムによって異なります。

FN2.0 → .f20exp
FN-SS → .fssexp
RC2.0 → .r20exp
RC-SS → .rssexp

- 読込方法

FN、RC共に物件一覧画面の「外部入出力タブ」→「2022→2014物件インポート」ボタンより物件の圧縮ファイル読込をします。これより先の読込の流れは従来の圧縮ファイル読込と同等です。
※インポートボタンはシステムのSQL Serverのバージョンが2014の場合にのみ表示されます。



※読込できるファイルの拡張子はシステムによって異なります。

FN2.0 → .f20exp
FN-SS → .fssexp
RC2.0 → .r20exp
RC-SS → .rssexp

以上で終了です。詳細は弊社窓口までお問合せ下さい。